

入学試験問題



地理歴史

(配点 120 点)

平成 28 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題はすべて新課程と旧課程とに共通です。
- 3 この問題冊子は全部で 43 ページあります(本文は日本史 4 問 4～15 ページ, 世界史 3 問 16～27 ページ, 地理 3 問 28～43 ページ)。落丁, 乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 日本史, 世界史, 地理のうちから, あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 5 解答には, 必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 6 解答は, 1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 7 解答用紙の指定欄に, 受験番号(表面 2 箇所, 裏面 1 箇所), 科類, 氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 8 解答は, 必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 9 解答用紙表面上方の指定された()内に, その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 10 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち, その用紙で解答する科目の分のみ 1 箇所をミシン目に沿って正しく切り取りなさい。
- 11 解答用紙の解答欄に, 関係のない文字, 記号, 符号などを記入してはいけません。また, 解答用紙の欄外の余白には, 何も書いてはいけません。
- 12 この問題冊子の余白は, 草稿用に使用してもよいが, どのページも切り離してはいけません。
- 13 解答用紙は, 持ち帰ってはいけません。
- 14 試験終了後, 問題冊子は持ち帰りなさい。

地 理

第 1 問

アメリカ合衆国とヨーロッパ諸国に関する以下の設問 A～C に答えなさい。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

図 1—1 は、2000 年におけるアメリカ合衆国本土(アメリカ合衆国のうちアラスカ州とハワイ州を除く範囲)の人口分布を示した地図である。同国の国勢調査で使用されている集計単位ごとに、人口密度が高いほど色が濃くなっている。地図には人口密度の情報のみが示されており、海岸線、湖岸線、国境線、道路などの他の情報は示されていない。

- (1) 図 1—1 によるとアメリカ合衆国本土では東半分(北東部、中西部、南部)と太平洋岸で人口が相対的に多く、西半分では、太平洋岸を除き人口が相対的に少ない。このような大局的な差をもたらした自然的要因について、1 行で述べなさい。
- (2) 上記のように、アメリカ合衆国本土の太平洋岸を除く西半分では、人口が全体として少ないが、図 1—1 によると、A、B のように人口密度が高い地域も部分的に認められる。このような地域の発生に寄与した社会的・自然的要因を 1 つずつ挙げ、あわせて 2 行以内で述べなさい。



図 1—1

Harry Kao による。

- (3) 図1-1から読み取れるアメリカ合衆国中西部における人口分布の空間的パターンの特徴と、その特徴が生み出された背景について、下記の語句をすべて用いて3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

交通 集落 農業

設問B

次の文と表1-1は、アメリカ合衆国の北東部の都市群に関するものである。

アメリカ合衆国の北東部には、北東から南西方向に、ボストン、ニューヨーク、フィラデルフィア、ボルティモア、ワシントンへと、多くの都市が連なっている。この地域の星雲状の都市の連なりをフランスの地理学者ゴットマンは、メガロポリスと呼んだ。

表1-1は、メガロポリスに該当する統計区域を取り上げ、1950年から半世紀にわたる人口の変化を示したものである。この表からは、全米におけるメガロポリスの地位の低下^(a)とともに、メガロポリス内部での人口分布の変化^(b)を読み取ることができる。

- (1) 下線部(a)について、こうした変化が起きた理由について、2行以内で述べなさい。
- (2) 下線部(b)について、どのような変化が生じてきたか、この表から読み取れることを、1行で述べなさい。
- (3) 1980年代後半以降になると、ニューヨークやボストンなどの都心部では、ジェントリフィケーションと呼ばれる新たな変化が生じてきている。具体的に、どのような変化が生じてきているか、3行以内で述べなさい。

表1—1

	1950年	2000年
(A) メガロポリス全域の人口(千人) 対全米人口比率(%)	31,924 20.9	48,720 17.3
(B) うち都市地域人口(千人) (B)/(A)の割合(%)	22,720 71.2	47,682 97.9
(C) 中心都市人口(千人) (C)/(A)の割合(%)	16,436 51.5	16,453 33.8
(D) 郊外地区人口(千人) (D)/(A)の割合(%)	6,284 19.7	31,229 64.1

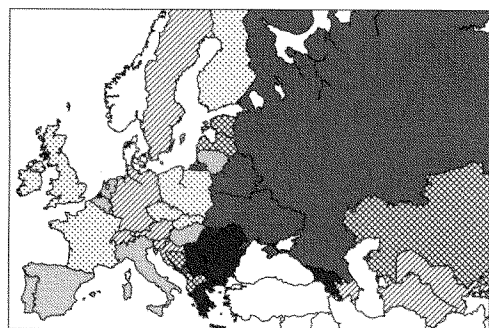
Vicino ほかによる。

設問C

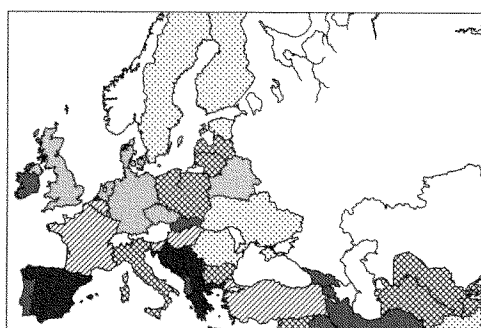
図1—2(a)~(f)は、2010年(ただし、国により多少の時期のばらつきがある)における以下の数値のいずれかをそれぞれ表したものである。ぬり分けの色が濃いほど値が大きいことを表し、各色に該当する国の数がそれぞれ等しくなるように区分している。

- (ア) 移民率
- (イ) 国民一人当たり GDP
- (ウ) 失業率
- (エ) 全人口のうち、正教徒の割合
- (オ) 全人口のうち、イスラム教徒の割合
- (カ) 全人口のうち、スラブ語派言語を母語とする者の割合

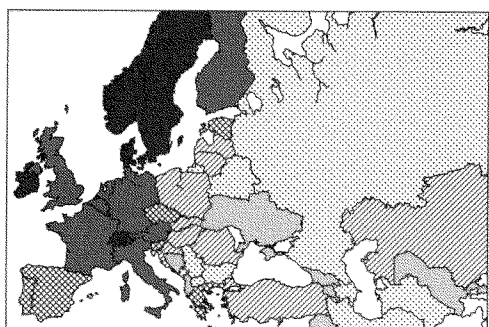
- (1) 図1—2(a)~(f)は、前ページの(ア)~(カ)のいずれかである。(a)~(f)に該当するものを、(a)―○のように答えなさい。
- (2) 図1—2(f)において、×を付した国群では他国とは異なる要因から値が相対的に高くなっている。その理由を1行で述べなさい。



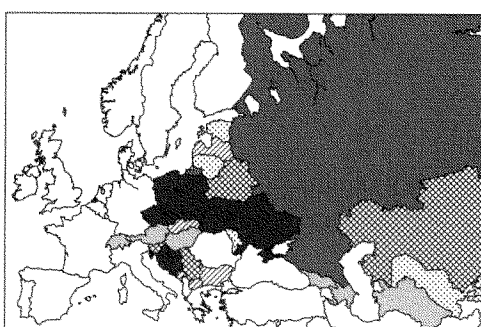
(a)



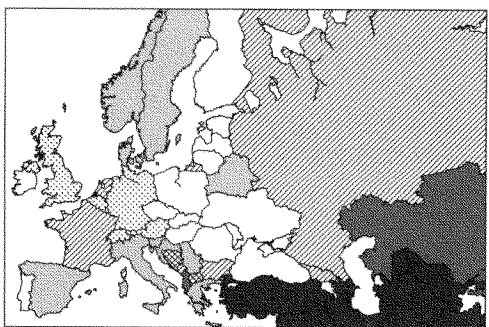
(b)



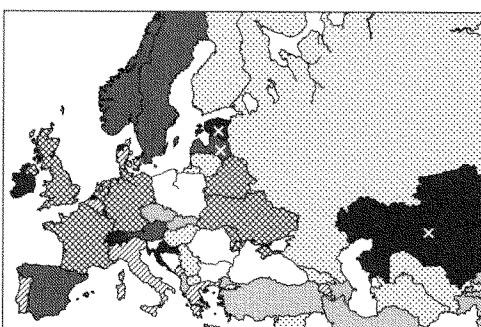
(c)



(d)



(e)



(f)

図 1—2

CIA The World Factbook, The European Regional Factbook, The World Bank Open Data 他による。

第 2 問

世界の農業に関する以下の設問 A～B に答えなさい。解答は、解答用紙の(ロ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

図 2—1 は主要な植物油の世界生産量の推移を示したものである。また、表 2—1 は、図 2—1 に示した各油種について、主要国の搾油量(①欄)とその原料となる農産物の生産量(②欄)を示したものである。図 2—2 は、表 2—1 の国(a)～(d)の首都の雨温図である。これらの情報をもとに、以下の設問に答えなさい。

- (1) A～C に該当する植物油を、以下の選択肢から選び、A—○のように答えなさい。

オリーブ油	ココヤシ油	ごま油	大豆油
とうもろこし油	菜種油	パーム油	

- (2) (a)～(d)に該当する国名を、以下の選択肢から選び、(a)—○のように答えなさい。

アルゼンチン	ウクライナ	オーストラリア	中国
フィリピン	フランス	マレーシア	メキシコ

- (3) 図 2—1 にみられるように、植物油の世界的な需要は、人口増加率をはるかに上回る勢いで増加している。その要因として考えられることを 2 つ挙げ、あわせて 2 行以内で述べなさい。

- (4) A の原料となる作物の生産拡大が引き起こす環境問題について、下記の語句をすべて用いて 2 行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

生物多様性 二酸化炭素

(百万トン)

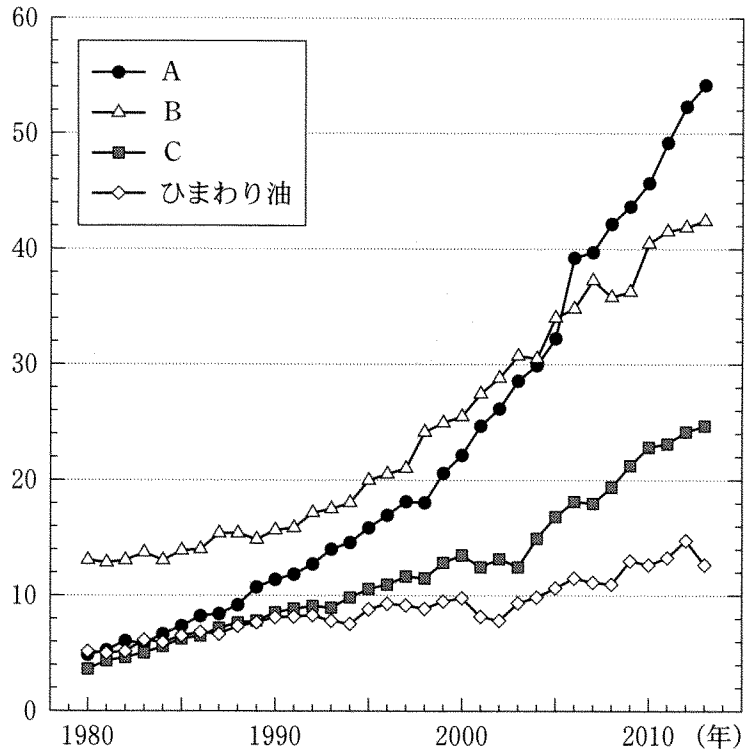


図 2—1

FAO 資料による。

表 2—1

	A		B		C		ひまわり油	
①欄	インドネシア	49.6	(b)	24.4	(b)	22.5	(d)	25.6
	(a)	35.8	アメリカ	21.4	ドイツ	13.3	ロシア	24.2
			ブラジル	16.7	カナダ	13.0	(c)	10.4
			(c)	15.1				
②欄	インドネシア	44.2	アメリカ	34.1	カナダ	23.8	(d)	22.5
	(a)	36.5	ブラジル	27.3	(b)	21.7	ロシア	21.5
			(c)	16.6	インド	10.2	(c)	9.0

数値は 2012 年の世界生産量に対する各国の比率(重量比, %)。

FAO 資料による。

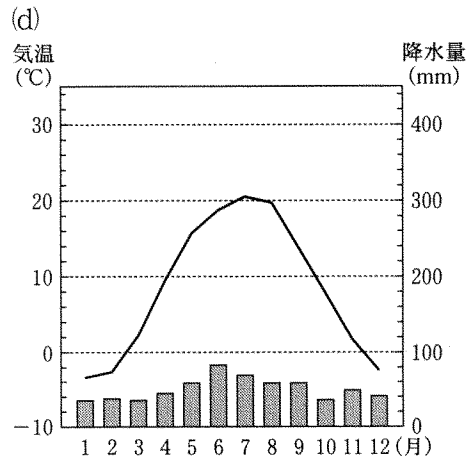
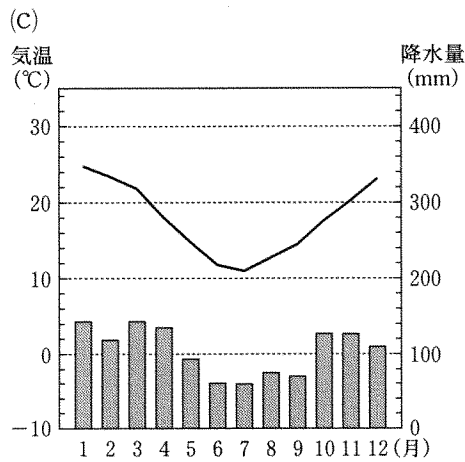
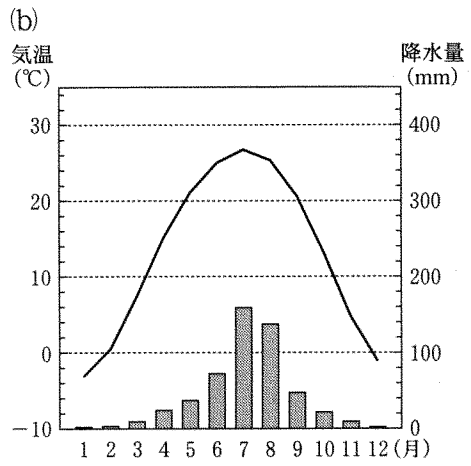
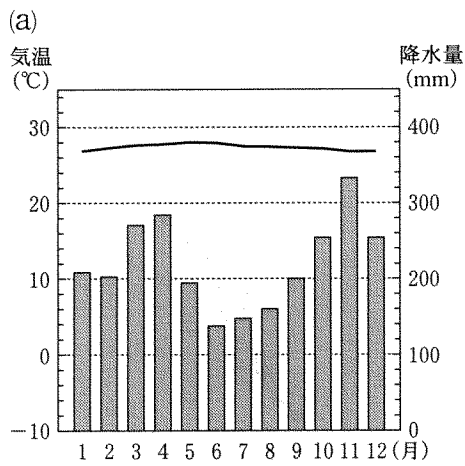


図 2—2

気象庁による。

設問B

表2—2は、世界のいくつかの国を取り上げ、主要農産物の自給率を示したものである。

- (1) (イ)、(ロ)、(ハ)の各国は、世界の農業生産ないしは農産物貿易において重要な地位を占める、中国、アメリカ合衆国、タイのいずれかである。(イ)、(ロ)、(ハ)の国名を、(イ)—〇のように答えなさい。
- (2) トルコでは、全般に自給率が高く、100%を上回る農産物が多くみられる。このような状況の背景にあるトルコの農業の特徴を、同国の自然環境・社会条件に関連づけながら2行以内で述べなさい。
- (3) メキシコでは、全般に自給率が低いが、特定の農産物に関しては100%を大きく上回っている。このような状況にある背景を、同国をとりまく社会経済状況と関連づけながら2行以内で述べなさい。

表2—2

国	米	小麦	砂糖類	いも類	野菜類	果実類	肉類
(イ)	190	171	101	93	91	75	116
(ロ)	180	0	372	378	105	155	127
(ハ)	100	95	95	90	102	102	99
トルコ	79	122	112	100	106	132	106
メキシコ	15	57	86	77	177	118	81

2011年、単位%

重量ベース、国内生産量を国内向け供給量で除した値。

国内向け供給量＝国内生産＋輸入－輸出±在庫

FAO資料による。

第 3 問

日本の都市，環境と災害に関する以下の設問 A～B に答えなさい。解答は，解答用紙の(ハ)欄を用い，設問・小問ごとに改行し，設問記号・小問番号をつけて記入しなさい。

設問 A

次の図 3—1，図 3—2 は，都市の環境と災害に関するものである。

- (1) 図 3—1 は平野の地形を分類した図である。ア～ウに該当する地形名称を，ア—○のように答えなさい。
- (2) 図 3—1 中の X から X' にかけては，複数の河川を合流させず，流路が直線状になるように整備している。その目的として考えられることを，1 行で述べなさい。
- (3) 図 3—2 は，図 3—1 中の地点 P における 1960 年以降の累積地盤沈下量を示している。地盤は 1975 年頃まで沈下した後，安定している。沈下の理由と安定化した理由を，その社会的背景とともに，あわせて 2 行以内で述べなさい。
- (4) 図 3—1 中のウの土地は，どのような自然災害に対して脆弱であると考えられるか。例を 2 つ挙げ，それぞれの被害軽減のための有効な対策とあわせて，全部で 3 行以内で述べなさい。

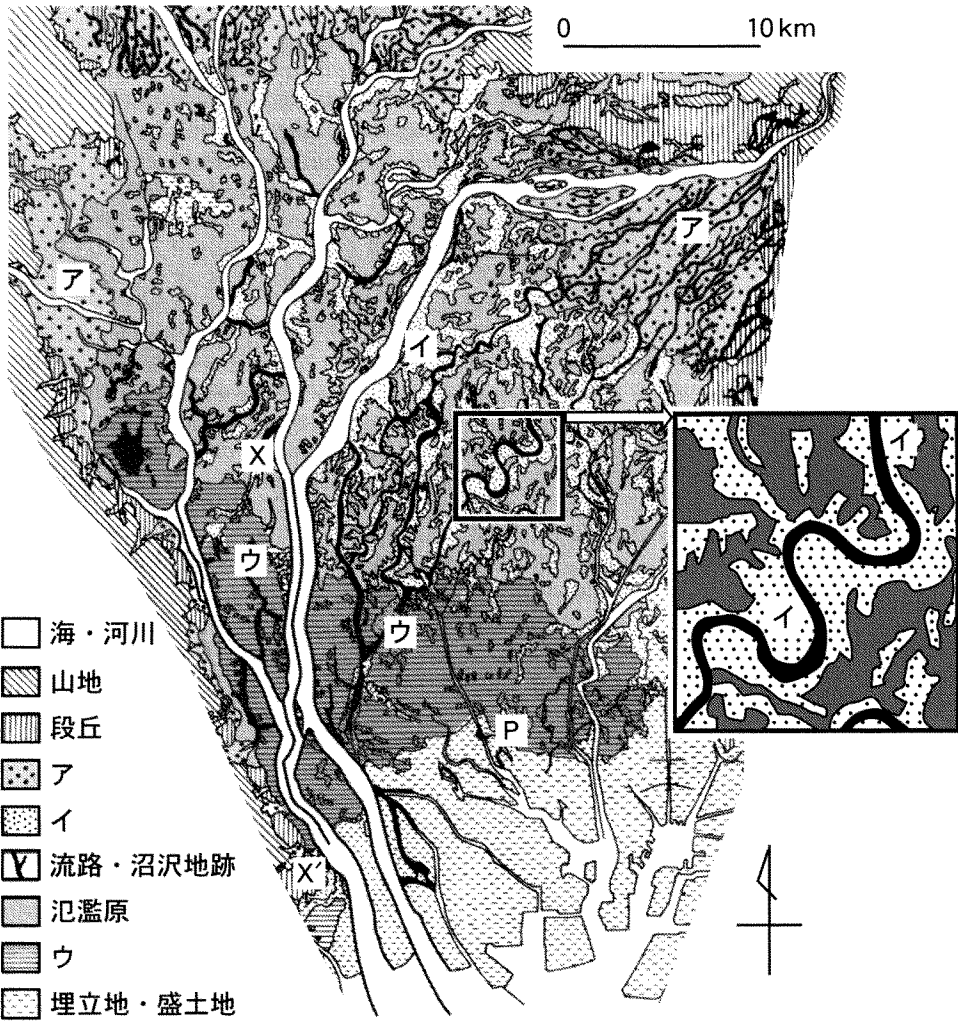


図3-1

桑原 1975 にもとづく。

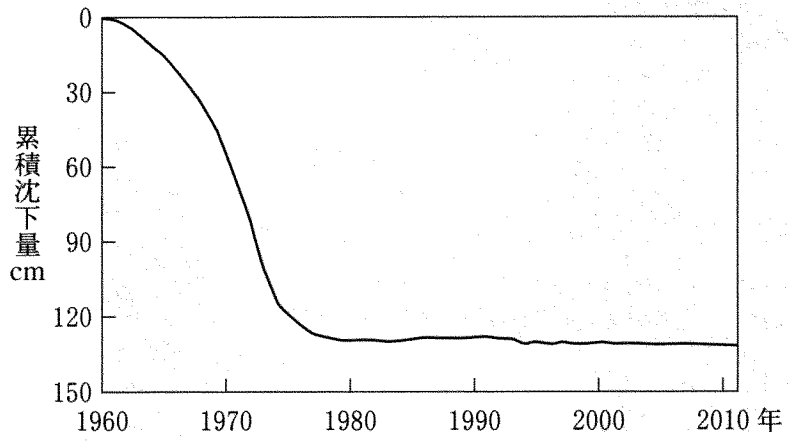


図 3—2

関係行政機関資料による。

設問B

図3—3および図3—4は、昭和と平成の2度の市町村合併を経験した地方都市A市およびその周辺地域に関するものである。

- (1) 図3—3および図3—4をみて、1950年当時における、A市および山間部の村の、それぞれの境界設定に用いられていたと思われる考え方を、あわせて2行以内で述べなさい。
- (2) 図3—4では、1965年と2010年の間にA市の人口集中地区(原則として、人口密度が4,000人/km²以上で5,000人以上の規模を持つ地区)の面積は3倍弱になっているが、人口は約30%しか増加していない。その理由を、2行以内で述べなさい。
- (3) 2010年時には、行財政の効率化などを目的としてA~Fの6市町村が合併し、新A市が形成されている。この合併によって新A市域内の山間部で発生する可能性があると考えられる行政上および生活上の問題をそれぞれ1つずつ挙げ、あわせて3行以内で述べなさい。

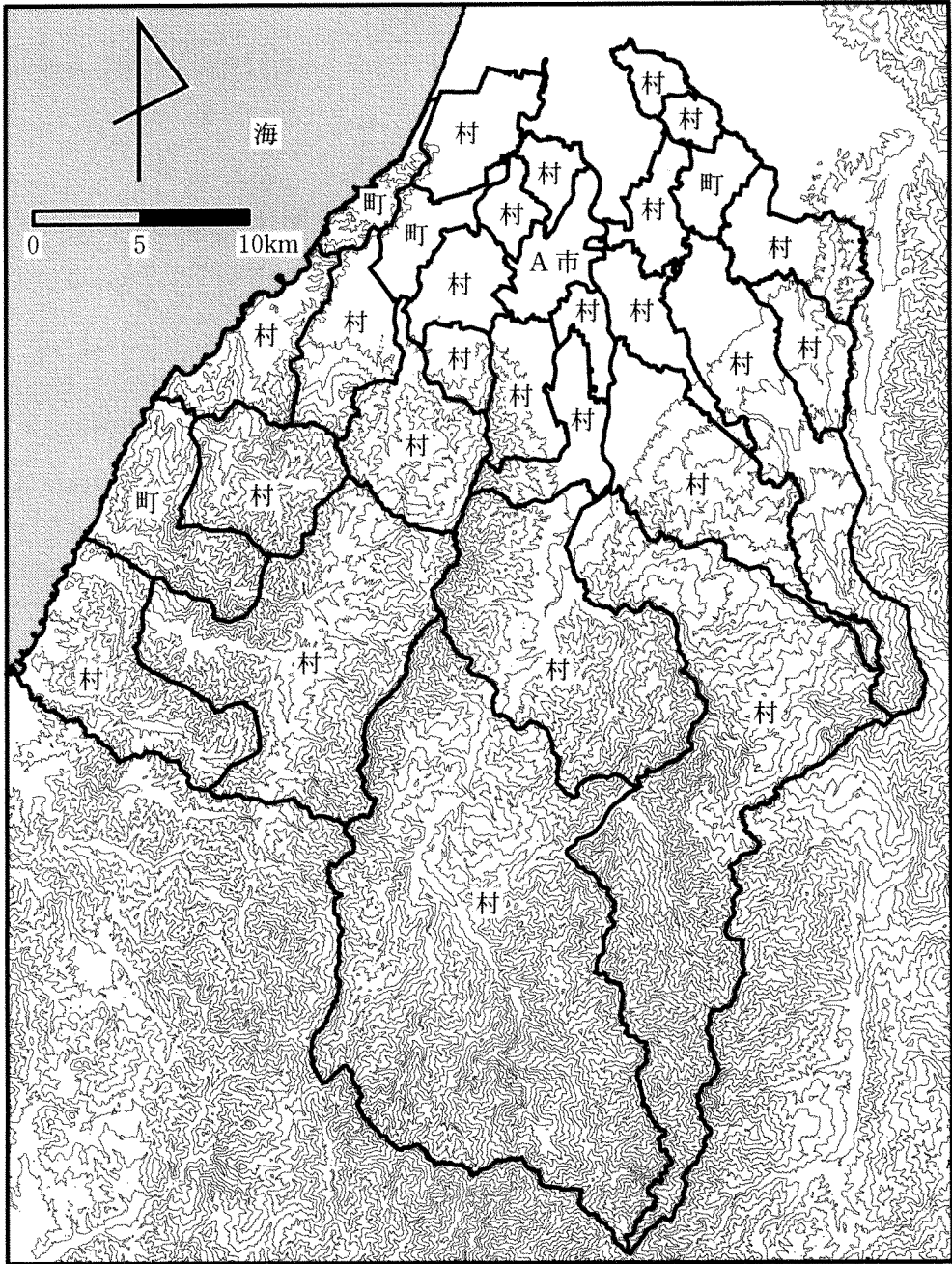
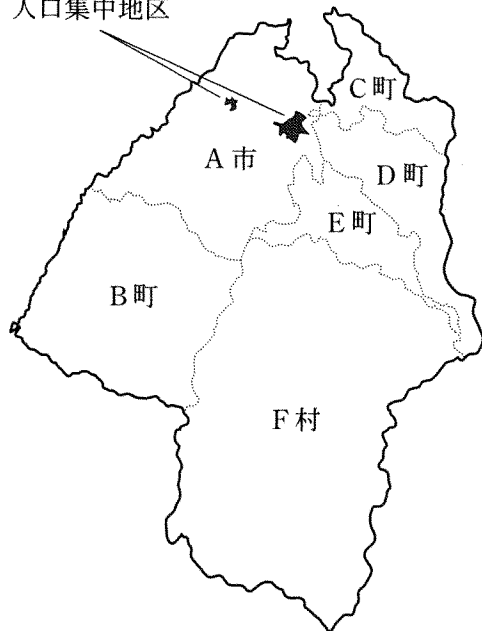


図 3—3

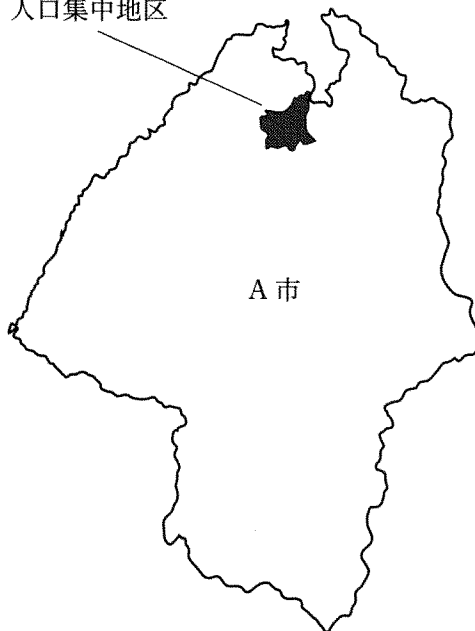
1950 年時の市町村境界

1965年時の
人口集中地区



1965年時の市町村境界

2010年時の
人口集中地区



2010年時の市町村境界

図3—4